



No.6

学校図書館 司書だより

2009年2月

図書館クイズ

市立図書館でこの1年間に、いちばん貸し出しの多かった子どもの本はなんでしょう？
(答えは裏にあります。)



子どもたちは大丈夫？



運動不足、コミュニケーション能力の低下、心身の発達のおくれや歪み、そして暴力事件の多発など、子どもたちを取り巻くさまざまな問題の要因が、どうやら子どもの脳の発達とメディアの関係にあるのではないかと脳科学者達の研究で分かってきました。

すでに、一九九九年にアメリカの小児科学会が、二〇〇四年には日本小児科学会が、子どもとメディアの関係について、次のような警告を出しています。

- ・二歳までのテレビ、ビデオの視聴は控えよう。
- ・授乳中、食事中のテレビ、ビデオの視聴は止めよう。
- ・すべてのメディアへ接触する総時間を制限しよう。
- ・(一日二時間まで、ゲームは一日三〇分まで)
- ・子ども部屋にはテレビ、ビデオ、パソコンを置かないようにしよう。
- ・保護者と子どもで上手に利用するルールをつくろう。

テレビ放送が始まって五〇年あまり、今ではビデオ、テレビゲーム、パソコンやケータイと電子映像メディアがあふれています。そして国際調査では、日本の子どもがテレビ、ビデオを見る時間が一番長いという結果がでています。テレビを見せておけばおとなしいからと、一日中見せていたり、授乳中に携帯電話をしている母親がいたり、こんなことで子どもたちは大丈夫でしょうか。

人間の脳の中でも、一番注目されているのは、「前頭前野」です。感情や欲望を制御したり、相手

を思いやったり、未来を予測したりといった人間らしい心の働きや、高度な人間的な機能をつかさどる重要な部分です。この「前頭前野」は生まれてから三歳までと、小学生五、六年から思春期にかけて劇的に発達します。この大切な時期にしっかりと刺激して働かせていないと未発達のまま成長してしまいます。メディア漬けの生活は「前頭前野」を刺激しないどころか、その働きを低下させてしまい、その結果、子どもたちを感情のコントロールができない、思いやりのない人間にしてしまう心配があるのです。

前記の警告について親子で話し合い、ノーテレビデー、ノーゲームデーを考えてみませんか。そしてその空いた時間で親子一緒に遊び、一緒に本を読んだりどうでしょうか。読書は脳を刺激するだけでなく、親子のコミュニケーションのとてもいい媒体になることまぢがいなしです。

川島 隆太

★そこで！ 講演会のお知らせ

テーマ「子どもの心の発達とメディア」

3月14日(土) 13:30~15:30

中央公民館201号室 無料 託児あり

講師 山田真理子さん(九州大谷短期大学教授)・・・生まれたときから、メディアに取り囲まれた子どもたち。本当に必要なものはなんなのでしょう。実際のところをわかりやすく、きびしく！お話しさせていただきます。ぜひ、ご参加ください。

お問い合わせは、中央図書館27-7316まで

山之上小学校

読み聞かせの会 トトロ



昼休みにアニメ映画のテーマ曲が「トトロ」や「となりのトトロ」と校舎内に響くと、仲良し広場に目をキラキラ輝かせた子ども達が「今日は何を読むの？」と集まってきました。山之上小学校の読み聞かせの始まりです。

読み聞かせの会「トトロ」は、九年前にPTA母親委員会を中心となり発足しましたが、子ども達にもっと本を好きになってもらいたいという思いや、本を通じて子ども達に触れ合いたいという思いから、現在では母親委員の他に保護者や保護者OBといった二十六名の有志会員で、月に一度、昼休みに「読み聞かせ」を行っています。

毎月、昼休みに行う活動以外にも、読書週間に合わせて行う活動や夏休みにケヤキの木陰で行う活動など、「読み聞かせ」以外にも「手遊び歌」「紙芝居」「簡単工作」「お父さんの読み聞かせ」など、手を変え品を変え環境を変え活動しています。



毎年十一月には、「山之上町民ふるさと祭」にトトロも参加し、そこで得た収益で本を購入し、小学校でトトロ文庫として活用して頂いています。活動時間は決して長いとは言えませんが、子ども達がいろんな本と出会い豊かに成長してくれることを祈って、これからも活動を続けていきます。

*市内の小中学校では、保護者による読み聞かせが行われているところがたくさんあります。参加されてみてはいかがでしょう。くわしくは、各学校へお問い合わせください。()

「絵本との出会い」
蜂屋保育園 奥田純子

保育士をしている私は、毎日の元気な子どもたちとの関わりの中で、一日一冊は絵本の読み聞かせをするようにしています。

普段は、にぎやかで落ち着きのない子も読み聞かせが始まると「しーん...」。絵本は、テレビアニメのように動かないけれど、子どもたちの頭の中で、登場人物、ものなどが豊かに動いています。それに、子どもたちは、大人が気づかないようなすみっこの小さな物や、色の変化などもよく見えています。そして、いつの間にか自分が登場人物になっていたりして...。私自身もその子どもたちのつぶやきがたまらなく楽しい時間です。

また、年長クラスを担当すると必ず読むのが「エルマーのぼうけん」シリーズ三冊です。夏の昼寝のとき、一章ずつ毎日読んでいくと、昼寝のなくなる八月末に



ちょうど読み終わります。絵を見ながらではなく、絵(場面)を自分の頭に描きながら話を聞くので、はじめは内容がうまかつかめない子もいます。けれども毎日読んでいくうち、「次



はどうなるのかな?と話の続きに期待するようになっていきます。

読み終わると、「その本を見せて!」と、友だち同士、頭をよせあつて見たり、週末の貸し出しのときに借りていたりすることもよくあります。おうちのの人に読んでもらうて、また新たな発見や感動をあげわっているようです。

今は高校生になった子が「保育園のときに先生にエルマーのお話をよんでもらった」と話しているという話を聞き、とてもうれしくなりました。

これからも、いろいろな絵本と出会い、想像をめぐらせながら楽しさや感動を子どもたちといっしょにたくさんあげたいと思っています。

そして、たくさんさんの絵本との出会いが子どもたちの記憶に残り、感性豊かな心が育つことを願っています。

図書館クイズの答え
いちばん借りられたのは絵本『はらへこあおむし』です。二番目は『ノンタンおしっこしーしー』三番目は『バムとケロのさむいあさ』。
読んだことありますか?



「きみの家にも牛がいる」
小森 香折作
エルくらぶ 二一〇〇円

今年は丑年、そこで牛の絵本を紹介します。



私たち人間は、ふだんとても牛の世話になっていないのを知っていますか。それは牛乳や牛肉だけではなく、お家の中を見回してみるといるいる、あちらにもこちらにも牛が。いろいろな形に変身しているんですね。



「すずめのおくりもの」
安房 直子作
講談社 一一五〇円

今日は月に一度のとうふ屋さんのお休みの日だというのに、朝早くからなにやら呼ぶ声がします。店の前にすずめたちがずらりとならんで、湯のみじやわんいっぱいほどの豆で、とうふを一丁作ってくれというのです。

作者は、日常のなかのちよつとふしぎな心あたたまるお話をたくさん書いています。ほかの本もぜひ読んでみてください。

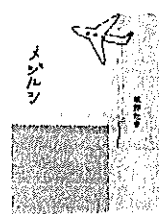


この本読んでみて!



「メジルシ」 草野 たき作
講談社 一二六〇円
友達の前では、両親のことを「健一くん」「美樹さん」と呼ぶ、中三の双葉。

三人は、両親の離婚を前に、北海道旅行にでかけます。双葉の右手の甲にあるヤケドの跡。双葉と目が合うのを避け続けている「美樹さん」。皮肉にも、別れを前にした旅行の中で、三人は家族の絆を取り戻していくのです。



「美樹さん」の語る「メジルシ」の意味は、深く切ない...



「大人が知らない子どもの体の不思議」
不思議
柚原 洋一著
講談社ブルーバックス 八六一円
「うちの子は寝相が悪い」と思ったことはありませんか?

食べ物の好き嫌いや早期教育の事など、日常生活のあらゆる角度から、子どもの心と体の不思議をわかりやすく解き明かしてくれそうです。
「理科離れ」という言葉を耳にしますが、私達の身の周りには科学があふれています。子どもと一緒に科学を楽しんでみてはいかがでしょうか。

